

# 衣装でみる宮永岳彦

## ～ 伝統と流行～

2024年12月7日(土)～2025年6月1日(日)

宮永岳彦にとって“衣装”とは？  
彩り豊かな作品に込められた装いの美学を紐解く ——

優れた色彩感覚と流行に敏感な感性を持っていた宮永にとって、作品に描かれる衣装はデザイン的な自己表現であり、絵画技術を発揮するフィールドでした。

しかしそれだけではなく、美しいものをより美しく描くという宮永の終生変わらぬ姿勢の表れでもありました。純粋な美への憧れ。彩り豊かな作品たちを観ていると、それが宮永絵画の本質のように感じるのです。

“装い”とは、時代を映す鏡であり、文化であるといえます。好奇心旺盛で探究心の強かった宮永は、様々な時代の装いに興味を惹かれて、それを絵面に表現しました。

時にロマンティックで華麗な世界観、時に情熱ほとばしる躍動、時に芸術への賛美。宮永は衣装を通して、その時々様々な想いを描き出しました。

本展では、宮永が描いてきた“衣装”に光を当て、その華麗な装いの彩り豊かな作品を紹介します。

伝統的なドレス衣装と最先端の流行服の対比は、美に対する造詣の深さを知るとともに、常にアンテナを張って感性を磨いてきた創作姿勢を感じることができるでしょう。美人画の他にも童画や挿絵、ポスターにいたるまで、あらゆる分野で宮永独自の美的センスが発揮されています。

衣装という視点から宮永作品を鑑賞すると、新たな魅力が見えてきます。宮永の衣装に対する想いを感じてみませんか。



《鴻》油彩画 100F 1979年



《躑》油彩画 80F 1966年



《オール讀物  
1963年9月号》  
表紙原画 1963年



《甲府商工信用金庫  
1969年カレンダー》原画  
制作年不明



《松坂屋 全店歳暮  
大売出し》ポスター  
制作年不明



《DENMARK 雅》油彩画  
60F 1971年

### 宮永岳彦 (1919～1987)



「光と影の華麗なる世界」と称される美人画で知られる宮永岳彦は、父親の転勤のため静岡県磐田郡(現在の磐田市)で生まれ、名古屋市立工芸学校に学びました。2度の兵役後、実家のある秦野に帰り、松坂屋百貨店銀座店宣伝部に勤務しながら、1946年から15年間、秦野市名古木のアトリエで創作活動を続けました。二紀会の設立に参加、1979年には日本芸術院賞を受賞、1986年には二紀会理事長に就任。油彩画をはじめ、ポスター、童画、表紙画、挿絵、水墨画など多彩な作品を残しました。

### 秦野市立 宮永岳彦記念美術館

〒257-0001 神奈川県秦野市鶴巻北 3-1-2  
TEL/FAX 0463-78-9100

《隣接》公営日帰り温泉 弘法の里湯 TEL 0463-69-2641



### 美術館へのアクセス

- ◆ 小田急線 鶴巻温泉駅から徒歩2分
- ◆ 駐車場 弘法の里湯と共用  
40台 / 1時間150円  
以降30分ごとに100円